

こんにちは

2017 Vol.22

CONTENTS【公立大学法人化特集】

ご挨拶.....	2-6
理事長、学長	
学部長、研究科長	
事務局長、学生部長	
附属図書館長、看護研究・研修センター長	
別科助産専攻長	
サークル紹介.....	6
卒業生からのメッセージ.....	7
20周年記念事業のご案内.....	8



新入生オリエンテーション
先輩たちとともに昼食作り

確かな歩みを

開学20周年を迎えたこの4月に、公立大学法人となった本学の理事長に就任した稲用博美です。宜しくお願いいたします。

法人化の目的は、端的に言えば、急激に変化する社会情勢、人々のニーズに適時的確に対応し、知の拠点、看護教育の拠点として、これまで以上に「地域に貢献する魅力ある大学」となるよう、さらに主体性・機動性の高い大学運営を図ることにあります。全職員が一体となって、力を合わせて取り組んでいかねばならないと思います。

さて、江戸時代、本県内を領していた各小藩は、他国と互していくために学問・教育に力を入れ、有為な人材の育成に努めました。そうした中から出たのが、本学の講堂に名を残す高木兼寛です。ビタミンの父と言われる兼寛の、課題に向き合い、ひたむきに取り組む先進性・着眼力・忍耐力は、現代にも通ずるものがあります。学生の皆さんもそうでしょうが、私も兼寛の姿勢を見習い、自分に課せられた役割を誠実に謙虚に果たしていきたいと考えています。

入学式で、知事から私の短歌の話がありました。単なる愛好家にすぎませんが、せっかくの知事の激励に応え、^{わざ}新入生・在学生へのメッセージを詠んで結びとします。

「おほかたに知を重ねゆく業とても手と目と心覚ゆ人なれ」



理事長
いなもちひろみ
稲用博美

公立大学法人宮崎県立看護大学の 初年度に当たって

本学は、豊かな人間性や幅広い教養を兼ね備えた資質の高い看護職者の育成を目指し、平成9年4月に看護学部看護学科の4年制単科大学として開学しました。その後、保健医療福祉サービスに対する多様化・高度化した人々のニーズに応えるため、優秀な学生の確保と教育機関の充実強化を図る必要性があり、平成13年4月大学院修士課程を、平成17年4月

に大学院の課程を博士課程に変更し博士前期・後期課程をもつ大学となりました。平成29年4月1日に開学21年目を迎え、公立大学法人宮崎県立看護大学として第一歩を踏み出しました。

法人化を機に、社会の在り様とともに地域や大学進学希望者から選ばれる魅力ある大学を目指し、大学内の全組織が有機的に連携し、「知（地）の拠点」として看護学教育・研究・地域貢献の3本柱を融合させた大学の活性化への取り組みを指向した地域再生・活性化の核となる大学にしたいと理事長をはじめ、全教職員が一丸となって尽力して参ります。



学長
瀬口チホ

教育内容の充実と きめ細やかな学修支援をめざして

公立大学法人宮崎県立看護大学として新たなスタートを迎えたこの年に、引き続き学部長を拝命しました。新しい組織体制の中、地域に根ざした大学として更なる自律性をもって、地域社会の期待に応えられるように、教育及び研究等の充実向上に努め、成果を着実に上げていきたいと思っています。大学教育の質の保証が問われる中、一般教育と専門教育の有機的連携を一層強化した体系的な教育プログラムの構築をめざすと同時に、開学後20年の歴史の中で築き上げてきた様々な教育内容、例えば能動的かつ協同的な学習姿勢を育む教育プログラムの実施、多様なメディア教材を用いた学習支援システムの開発と活用、若手看護教員に対する教育技術力向上のための支援システム等を、本学の特色、強みとして活かし、学生へのより個別的・きめ細やかな学修支援に向けて取り組んでいきたいと考えています。

教職員、学生とともに協働しながら、地域に貢献できる魅力ある大学づくりをめざしていきたいと思っています



学部長
栗原保子

研究はVW、そして楽しく

研究とは新しい知の創造を目指して研鑽することであり、そこから新しい知見を得ることです。ノーベル賞を受賞された山中伸弥教授の知的生産性を支えているものは、「VW」であるとのこと。Vはビジョン、Wはワークハードの頭文字で、「長期の展望を持ち、それに向かって努力を重ねれば自然に結果はついてくる」というのが、教授の唱える「VW理論」です。ビジョンをもって、しかも、そのプロセスを楽しみながら、実験を繰り返してきた成果がIPS細胞の発見に繋がりました。研究の面白さを知ると、すべての現象を見る目が変わります。何時でも何処でも、臨床現場には豊富な材料が隠されています。小さな研究でもビジョンをもち、情熱を傾けて楽しくそれを追究していくことの積み重ねから、新しい知見が生まれてきます。その楽しさを求めて研究科の門を叩いてくれる皆さんを心からお待ちしています。



理事 兼 研究科長
齋藤益子

法人化のメリットを生かす 大学運営を！

3月までは県の職員として、4月からは公立大学法人の職員として、引き続き事務局長の立場で、教育・研究等の大学運営を支えることになりました。

さて、法人化によって、大学はどう変わるのか。先行して公立大学法人となった大学へのアンケート調査によると、多くの大学が、大学の裁量による予算配分や機動的な予算執行が可能となり、大学の活性化が図られたと回答しています。この法人化のメリットを最大限に生かすためには、大学自身が法人化という機会を前向きに捉え、学生へのより質の高い教育の提供、質・量ともに充実した研究活動の促進、積極的な地域貢献活動等をどのように実現していくのかを自らに問い、その答えを模索していくことが重要です。公立大学法人として立ち上がったばかりですが、保護者の皆様や医療関係者、その他大学を支えて下さる多くの方々のお力を借りながら、事務局職員共々、大学発展のために尽力して参りますので、今後とも、よろしくお願い申し上げます。



理事 兼 事務局長
徳永雅彦

新たな環境で学生が社会人基礎力・人間力を 身につけることができるように!!

4月より、福岡県立大学から赴任し、学生部長を拝命致しました。今年度から本学が法人化したこともあり、大学も、私も、これまでの伝統、経験を大切にしつつの新たなスタートとなりました。先日、知人から松尾芭蕉の「不易流行」という言葉、「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」を教えてくださいました。「不易」を追求しつつも、「流行」の中で成長・発展できるようにと気持ちを新たにしています。ところで、大学は学ぶところですが、日々の悩みなどを友人と語り合ったり、長期の休暇には日ごろできないことにチャレンジしたりと、自分を知り、自分の活動を広げていける機会・場でもあります。その経験が社会に出たときの財産となります。学生一人一人が学生生活と大学での学びを共に充実させ、社会人基礎力や人間力を備えて卒業していけるように環境を整え、サポートしていきたいと思っています。



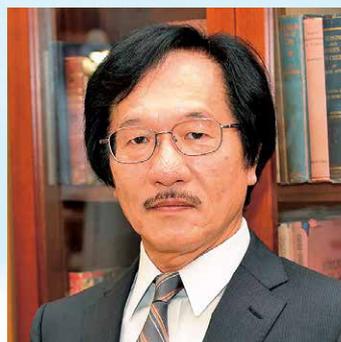
学生部長
田中美智子

法人化にあたって

看護学の拠点となるべく開学して以来、二十年、本学は公立大学法人として自立運営へ移行し、更なる発展が期待されている。この間、図書館入口に立つナイチンゲールの洋燈の灯は、多くの教員たちによって灯され続け、二千人近くの卒業生・修了生に受け継がれて宮崎の地に、そして全国に広がり、その光で世の中を満たしつつある。

法人化によって、この付属図書館も、開館時間、学習環境、蔵書の選択・管理、学術論文検索サービスなどなどを、利用者のニーズに即して独自に改善・利便化していく自由度が大きく広がったという意味で、自立運営の時期に入ったと言えよう。

それだけに、なおのこと、これまで看護学としての知恵と技の生産と継承とを支え、育ててきた自負とともに、その責任を再確認しつつ、受け継がれていく灯がより力強く輝くよう、今後も、ブレない軸を堅持して、よりよい看護学専門図書館への努力を続けなくてはならないと考えている。そのためにも、学生・教員の、図書館利用者としてのますますの協力を期待したい。



附属図書館長
浅野 昌充

地域へ貢献する大学を目指して

看護研究・研修センター長 小野 美奈子

看護研究・研修センターは、大学が行う地域貢献の拠点として、大学に附設されています。法人化後の大学像である「地域社会と連携し、本県の保健・医療・福祉の充実に貢献する大学」の実現のために、一層役割が大きくなると考えています。

平成27年度からは県の地方創生事業「魅力ある大学づくり・人づくり」のプロジェクト事業を引き受け、施策展開の一端も担っています。その事業の一環として、平成29年10月から、県・宮崎県看護協会との連携の下、認定看護管理者<サードレベル>教育課程を開設することとしました。この教育課程では、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供する力、及び地域社会のヘルスニーズを先取りし、創造的な看護をマネジメントする力を持つ看護リーダーの養成を目指しています。

今後も地域のニーズを見据え、看護の質の向上・県民の健康の向上のために、大学の持つ教育・研究の機能を発揮していきたいと思えます。



看護研究・研修センターの皆さん
小野センター長（前列中央）

別科助産専攻長としての抱負

別科助産専攻長 濱 寄 真由美

平成29年4月に、第1期生である助産師学生15名が入学致しました。
別科助産専攻の助産師教育においては、質の高い実践的助産師の育成を看護師課程修了後に1年間行います。さらに、県立看護大学の役割として、宮崎県内各地域の母子保健に貢献できる助産師の育成を目指しています。



別科助産専攻の教員・学生とともに 濱寄真由美先生（前列右から4番目）

卒業時の資格としては、助産師国家試験受験資格、新生児蘇生法専門コース、受胎調節実施指導員の資格が取得可能です。一步一步着実に臨床・助産院・市役所の指導者と共に、「対象の方から信頼できる助産師」を育成していきたいと思えます。

サークル紹介

MPNU ソフトテニスサークル

こんにちは! ソフトテニスサークルは、先輩後輩の仲が良く、元気に活動しています!

☆活動日：毎週水、木曜日 ☆場所：看護大テニスコート



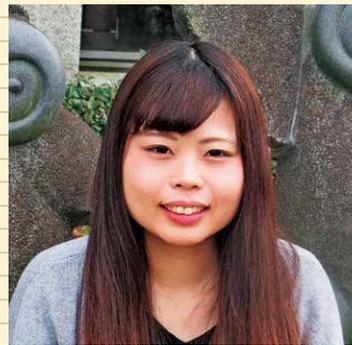
こんにちは、私達はソフトテニスサークルです。昨年発足したばかりの新しいサークルで、現在部員は21名です。男女、先輩後輩の垣根を越えてワイワイ仲良く元気に活動しています。技術向上の為に教え合いを大切に、練習しています。練習だけでなく、大会出場を視野に置き、校内戦なども定期的に行っています。初心者から経験者まで、皆が楽しめるサークル活動を目指しています。入ってくれた後輩、活動に参加してくれる仲間への感謝の気持ちを忘れず、元気に今後も活動を行っていこうと思えます。

2016年度卒業生からのメッセージ

看護大で過ごした4年間はとても充実していて、貴重な時間を過ごすことができました。講義の中だけでなく、実習で出会った患者さんや地域住民の皆さんなど、たくさんの人との関わりを通して、たくさんのことを学ばせていただきました。看護とは何か、から学び、対象がより健康に生活を送るためには、対象を個・家族・地域の視点で捉え、その人らしさを尊重することが大切であることなど、様々なことを学びました。また、実習を経て実際の看護の難しさや楽しさも実感することができました。

この4年間、先生方や仲間を支えてもらいながら、将来の目標に向かって成長することができました。看護大で学んだことを活かしながら住民の皆さんの健康な生活を支えられる保健師になれるよう、今後も頑張っていきます。

授業や実習など、大変なこともあると思いますが仲間と共に励まし合い、楽しみながら素敵な学生生活を送って、目標に向かって頑張ってください。



山下 恵奈

出身高校：宮崎県立小林高等学校
就職：日向保健所



香梅 志帆

出身高校：宮崎県立宮崎大宮高等学校
就職：社会医療法人同心会
古賀総合病院

私は看護大学で4年間学び、自分を大きく成長させることができたと感じています。3年時の臨地実習Ⅱで初めてお産に立ち会わせてもらい、助産師を目指し勉強、実習に励んできました。勉強することが多く、自分にとって大きな壁にぶつかったり、正直「もう嫌だ」と投げ出したくなったりと、悩むことは多くありました。しかし、そんな時に支えてくれたのは、看護大学の先生方や実習先で指導してくださったスタッフの方々、大学で共に看護師・助産師を目指す仲間たち、実習で出会う患者さんたちでした。たくさんの人が、私の夢を応援してくれていたからこそ、この4年間、諦めることなく頑張ることができたのだと思っています。大学4年間は、本当にあっという間でした。在校生の皆さんも悔いが残らないよう、仲間と共に楽しみながら、自分の夢に向かって頑張ってください。

看護大での生活は、私を大きく成長させてくれた4年間でした。講義や技術の修得は、難しい時もあり投げ出したくなる時もありました。ですが、臨地実習等を通して出会った、多くの患者さんや現場の方とのかかわりを通して、患者さんに寄り添う大切さや嬉しさも、改めて感じることができました。患者さんが元気に退院し、自宅で健康に生活していく上で、看護師は必要不可欠です。そのことを常に意識しながら、看護師として自身にできる精一杯を、常に行えるようこれから頑張っていきます。

今の自分があるのは、これまで支えてくれた先生方や実習先の方々、先輩や声をかけてくれる後輩、常にユーモアあふれる同輩、そして家族のおかげだと思います。そのような方々との縁を大切にしながら看護師を目指して頑張ってください。ありがとうございました。



畝 友規

出身高校：宮崎県立宮崎南高等学校
就職：独立行政法人地域医療機能推進機構
宮崎江南病院

「開学20周年記念事業」を実施します!

実行委員長 串間 敦郎

平成9年4月に、九州で初の公立看護大学として開学した本学は、今年開学20周年を迎えます。そこで、本学をこれまで支えてくださった皆様に感謝するとともに、本学が今後更に発展する契機とするために「開学20周年記念事業」を実施します。

基本コンセプトは、「地域とともに 次代をひらく」としています。これは、地域の人々の健康と福祉の向上のために、次代を担う人を育み、次代の保健・医療・福祉に寄与する知見を生み出す大学を目指すということで、この理念に基づいて各事業は実施していきます。

以下に各事業を紹介します。

①大学のキャッチフレーズと応援キャラクターの作成

今後の本学の発展を目指して、キャッチフレーズを学内外に募集し、本学の基本理念や目指す大学像の趣旨を踏まえつつ、今後の進むべき方向を示すものとして、「**まもりたい笑顔がある 郷土がある 宮崎県立看護大学**」に決定しました。そして、“みやざき犬”に看護大生のいでたちで登場していただき、本学の「応援キャラクター」としました(下図参照)。これらは、今後本学の広報等に活用していきたいと考えています。



②記念式典、記念講演、祝賀会、ホームカミングデーの開催

9月23日(土)に、本学高木講堂等に於いて「記念式典」「記念講演」「祝賀会」を行います。県内の地域医療にこれまで貢献された方を講師に招いての記念講演、映像で振り返る看護大20年の歩み等計画しています。式典等に引き続いて、同窓会と共同で本学の卒業生に参加していただいて、本学教職員及び在学生と交流する「ホームカミングデー」を実施します。退職された先生方もお招きしたいと思っていますので、多くの卒業生の参加をお願いします。

③宮崎県立看護大学看護学研究会を合同で開催

9月24日(日)に、宮崎県立看護大学看護学研究会を20周年記念事業の事業として合同で実施します。基本コンセプトに沿って、地域で活躍されている医療関係者をお招きしてのパネルディスカッション等を計画しています。

④開学20周年記念誌の発行

開学から20年、特に11年目から20年目の歩みをまとめた記念誌を発行します。

在学生をはじめとして、卒業生、後援会及び関係の皆様には、この記念事業にいろいろな形でご参加、ご支援いただけるよう現在検討中です。是非ともご参加、ご協力をお願いいたします。

21年目を歩み出す本学に、これからもご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。